

みなとのニュース

紋別港港町地区 屋根付き岸壁 供用式典を開催

北海道開発局 網走開発建設部

紋別市と網走開発建設部は、令和6年11月17日(日)紋別漁業協同組合会議室を会場として、「紋別港港町地区 屋根付き岸壁 供用式典」を開催しました。当日は、北海道選出の国会議員をはじめ関係者約70人の出席のもと、宮川市長、半谷網走開発建設部長の式辞で始まり、稲田港湾局長の挨拶、武部新衆議院議員、鈴木宗男参議院議員、佐藤英道衆議院議員、川原田英世衆議院議員からの来賓祝辞、祝電披露、事業概要報告、飯田紋別漁業協同組合長から輸出促進の取組について紹介が行われました。その後、屋根付き岸壁に移動してテープカットを行い、盛会のうちに式典を終えることが出来ました。

本施設は、道内6港湾管理者により策定された農水産物輸出促進計画に基づき平成29年度から整備を開始しました。整備を終えた部分から順次供用を開始し、昨年11月に岸壁延長312mに210mの屋根施設全7棟が完成し、完全供用を迎える事ができました。

紋別港港町地区は紋別港の中でも水産関連エリアに位置付けられており、オホーツク振興局管内で1番となる約8万tの水産物の水揚げを支えています。屋根付き岸壁として整備された4m物揚場は昭和32年から34年に整

備された施設であり、築後60年を経て、コンクリートの劣化、防舷材等の付属物の損傷や腐食が進行し、その対策が課題となっていました。また、降雪や強風による水揚げ作業効率の低下、野天での水揚げとなっており、直射日光や雨による水産物の鮮度低下、粉塵や野鳥の糞尿等の異物混入といった問題がありました。このため、老朽化した既存岸壁本体施設の改良整備にあわせて、取り扱われる水産物の鮮度保持や衛生管理、防雪、防風による就労環境改善や水揚げ作業の効率化のための屋根付き岸壁として整備を進めてきました。

屋根付き岸壁の完成により、紋別産ホタテなどの品質向上とともに、利用者の就労環境の改善も図られました。年間80億円(令和4年)を超える漁獲高を誇るホタテの更なる輸出促進を図るため、港湾背後には、国際的な食品衛生管理「HACCP」認証を取得した加工場の立地が進むなど、政府目標である2030年の農林水産物・食品輸出額5兆円に貢献出来るよう、官民連携して輸出拡大に取り組んでいます。



テープカット



供用を開始した屋根付き岸壁



宮川市長の式辞



武部新衆議院議員からの祝辞



ホタテの陸揚げ状況